



双塔

カトリック新潟教会

2021年8月
No. 399

聖母の被昇天

ピオ十二世教皇の使徒憲章『恵みあふれる神』

聖なる教父や偉大な博士たちは、聖母被昇天の祭日にあたって民に対して行った説教や訓話の中で、マリアの被昇天については、すでにキリスト信者に知れわたり、受け入れられていることとして話しており、それを細かく説明するとともに、その意味と内容をいっそう深く説明し、処女聖マリアの遺体が全く腐敗を免れたことばかりでなく、そのひとり子イエス・キリストの模範にならって死に打ち勝ち、天の栄光に上げられたことが、この祭日に記念されることを特に明白にした。

たとえば、他の人々に抜きん出て、マリア被昇天という伝承された教えの優れた説教師であったダマスコの聖ヨハネは、神の母マリアの体が天に上げられたということを、マリアが受けた他の賜物や特権と関係づけて考察し、次のように雄弁をふるっている。「出産に際して、処女を無傷に守ったマリアの体が、死後もあらゆる腐敗から守られるのは当然であった。創造主を子どもとして体内に宿したマリアが、神の幕屋に滞在するのは当然であった。御父によってご自分の花嫁に定められたマリアが、天の家に住まうのは当然であった。十字架上のわが子を眺めて、出産のときには免れた悲しみの剣を胸に受けたマリアが、父の右に座すわが子を観照するのは当然であった。神の母が、子をもっておられるものを持ち、すべての人から神の母、神のはしめとして敬愛されるのは当然であった（ダマスコの聖ヨハネ「神の母、終生処女マリアのご死去の祭日の説教」2・14）。」

また、コンスタンチノーブルの聖ジェルマノは、神の母処女マリアの体が腐敗せずに天に上げられたことは、神の母にふさわしいことであるばかりでなく、マリアの処女としての体の特別な聖性にもふさわしいことであると考え、次のように言っている。「聖書に書き記されているとおり、あなたには美しさが身についている。処女であるあなたの体は、全く貴く、全く清く、全く神の住まいである。だから、あなたの体はもはや塵に帰ることもない。それは、人間の体として腐敗することのない、最高のいのちで生きように変えられた。その体は、生きていて栄光に輝き、完全ないのちにあずかる無傷の体である（コンスタンチノーブルの聖ジェルマノ「神の聖なる母のご死去の祭日の説教」1）。」

さらに、別の古代の著作者は次のように書いている。「したがって、マリアは、いのちと不死の与え主、わたしたちの救い主であり神であるキリストの栄光に満ちた母として、キリストによっていのちを与えられ、永遠にキリストと一体になって不滅のいのちに生きるようにされた。このキリストは、マリアを墓から立ち上がらせ、キリストのみが知っておられる方法で、ご自分のもとに呼び寄せられた（エルサレムのモデストのものと伝えられる「神の母、終生処女マリアのご死去をたたえて」14）。」

聖なる教父たちのこれらすべての主張と考察の最終根拠は聖書である。実に聖書は、神の母マリアを神であるその子イエスに最も固く結ばれて、いつもその運命に参加する方として、わたしたちの眼前に提示している。

特に指摘すべきことは、二世紀以来、聖なる教父たちが処女マリアを新しいエバとして提示しているということである。新しいエバとして、マリアは新しいアダムであるキリストに従属しているが、悪魔という敵に対する戦いにおいてキリストと固く結ばれているこの戦いは、原福音に予告されているように（創世記3・15参照）、異邦人の使徒パウロの手紙においては、常に相互に結ばれている罪と死に対する完全な勝利に到達する。したがって、キリストの栄光に輝く復活が、この勝利の本質的部分であり、最終的なしるしであったのと同様に、聖なる処女がわが子とともに戦った共同の戦いは、処女の体を栄光に輝くものとされることによって終結すべきものであった。同じ使徒パウロが言っているとおりで。「この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現する。死は勝利にのみ込まれた（一コリント15・54）。」

したがって、永遠から同じ一つの予定の決定によってイエス・キリストに神秘的に結ばれ、汚れない者として懐胎され、全き処女のまま神の母となり、罪とその結果に完全に打ち勝った、聖なる贖い主の気高い協力者、神の偉大な母マリアは、最後にその種々の特権の最高の完了として墓の腐敗を免れ、わが子と同様に死に打ち勝って、体も魂も天上の栄光に上げられるという恵みを受けた。そこでマリアは永遠で不死の王である（一テモテ1・17参照）わが子の右にいて、女王として輝くのである。

「毎日の読書」6巻195頁

そよかぜ便り

●ベトナム語ミサ 7月19日(日)

神言会のフック神父様が司式のもと、約1年ぶりにベトナム語ミサが捧げられた。参加したのは秋田・山形・新潟から集まった青年70人であった。成井司教様も青年たちとともにミサに参加された。予約制のもと、検温や間隔を空けるなどの感染対策をしてミサは盛大に行われた。聖歌の練習や資料の作成・お花の準備など、ベトナム人青年会による準備は数週間前から行われた。



ミサの終わりに成井司教様は「教会は世界中どこに行っても皆さんの家です。教会のコミュニティーは世界中どこに行っても皆さんの家族です。なので自分の住んでいるところの近くの教会を自分の家にして、皆さんと一つの家族になってほしいと思います。」と青年たちに優しく語りかけられた。また司教様の紋章が描かれたカードを参加者に配布し、「シンボルの中には2つの手があります。(手で持っている)聖書は福音です。2つの手は色が違います。」と国籍・言葉・年齢・性別など様々な違いを持ちながらも、私達が一緒に福音を生きていく重要性を強調された。成井司教様とフック神父様に花束が手渡され、ミサは締めくくられた。



ミサの動画や写真を左のQRコードから見ることができます。ぜひ御覧ください。

<https://bit.ly/3z8N7sh>

●聖歌隊の活動とお誘い

聖歌隊は典礼部に属しています。コロナ禍のためにミサが2部制になってからは、月2回の練習になりました。典礼聖歌、カトリック聖歌などが中心で常にオルガンと一緒に練習です。

音の少ない詩編のことは歌うのは難しく何度もくり返しています。ミサに与る人々が共に心をと声を合わせて、祈りの歌を歌うことを願って練習しています。メンバーは13名程ですが平日の練習の出席は8~9名「まじめ、明るい、歌うのが好き」が共通点でしょうか。

その他、特別なミサや式、結婚式、通夜葬儀(最近はおほとんどなし)聖歌予定表とオルガン当番の原案作成、聖歌のプリント作成(二部制ミサの期間のみ)等の仕事があります。

どんな形であれば参加できますか?練習日や時間など再検討したいと思っています。

聖歌隊に入ってくださいの方をお待ちしています。

(男女年齢問いません)

●「月曜会」の活動とお誘い

「月曜会」は1980年代初め、当時の新潟教区長、伊藤庄治郎司教によってはじめられた祈りと学びのグループが発端。この会は、秋田・聖体奉仕会修道院の木彫りの聖母像にまつわる「涙」「メッセージ」という「不思議な出来事」と結びついているために、指導司祭は新潟司教がつとめる。現在では、そのことよりもむしろ、小教区を超えた信徒の祈りと交わりの場として、聖母とともに、自分たち自身とすべての人々の回心のため、また、教会内外の必要のために祈りながら信仰の道を歩むことを主な活動としている。

7月19日、「月曜会」の月一回の例会日。月曜日開催ではあるが何週目になるかは不定期とあって、この日は青山4名、寺尾4名、新潟2名、花園3名の会員13名全員が顔をそろえた。

午前11時、成井司教様司式のミサ、引き続きロザリオの祈り、お告げの祈り(復活節中はアレレヤの祈り)、終わりの祈りの後、司教様から祝福をいただき解散となる。

月に一度、この濃密な恵みのひとときをともにしてみませんか。(次回開催は9月6日です)



編集長が初めて参加してみて…

一人じやなかなか設けることのできないしっかりとした祈りの時間を過ごせました。共に祈る仲間と司教様と本当に贅沢な有意義な時間でした。できれば平日仕事している人も参加できたらいいのに…と。

小教区評議会より

1. 各部会報告

- 1) 典礼部 特になし
- 2) 広報部 6/20 部会
双塔7月号110部発行
- 3) 総務部 7/11 部会予定
共同祈願1週目担当
- 4) 経理部 6/27 維持費整理
- 5) 国際協力部 6/27 部会
- 6) 施設係 修繕見積り待ち
- 7) 信仰養成 6/12 実施 8月は7日(土)予定

2. 行事関係の確認事項

- 1) 7月の主な行事
 - ・7/4(日)米沢殉教祭(米沢教会信者のみで実施)
 - ・教会学校サマースクール中止
- 2) 8月の主な行事
 - ・8/8(日) 日本カトリック平和旬間のミサ
(2部とも成井司教様司式)
 - ・8/13(金) 墓参 寺尾 17:30
日和山 18:00
 - ・8/15(日) 聖母被昇天ミサ(バーベキュー中止)

3. 連絡など

- 1) 秋の地区大会
 - ・中止、来年の秋の地区大会は長岡教会で開催予定の教区大会を兼ねる、北山原巡礼を行うなどの提案あり
- 2) 小教区規約の役割分掌について
 - ・役割分掌に則った運営の確認、見直しおよび改訂
- 3) 今後のミサ2部制について
 - ・今年いっぱい継続予定とする
- 4) 青山の修道院の鐘について
 - ・建物から無事下ろされたが、発送等の問題で未だ新潟教会に到着せず

4. 次回開催日 8月1日(日)

インフォメーション!

★各勉強会、講座に参加される場合は必ずマスクを着用してご参加ください

●聖書勉強会

日時 毎週水曜日 午前10時～

会場 カトリックセンター研究室

指導 ラウール神父

●はじめて教会を訪れる人のための聖書勉強会

日時 毎週火曜日 午後3時～

会場 カトリックセンター研究室

指導 ラウール神父

●信仰養成講座「知ってるつもり!?!」

日時 8/7(土) 午前10時～11時

会場 カトリックセンター研究室

指導 主任司祭 ラウール神父

●月曜会(秋田の聖母を通して祈る会)

成井司教のミサとロザリオの祈り(どなたでも、ミサのみ参加も可)

今後の予定 8月は休み 9/6、10/25

時間 午前11時～

指導 成井司教様 会場 新潟教会聖堂

主日のミサと同様、コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いいたします。

●聖歌隊の練習について

7月27日(火)～8月31日(火)まで、聖歌隊の練習はお休みします。

●夏期のミサについて

夏の間しばらくはセンター2階で行います。座席数に限りがあるため、他教会の方は11時のミサにご参加いただきますようお願いいたします。

●聖堂出口付近に関するお願い

ミサ後、出口付近でお話しされますと混雑してしまい、密集状態になりかねません。お話しされる場合は、聖堂を出た後にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

●季刊双塔の原稿募集箱を常設(広報部)

季刊双塔を発行する時期に関わらず、信徒の皆さんに何か出来事や思いがある時に書いていただくために、常設することにしました。

メールアドレスの記載もありますので、思った時に思いのままに皆さんの文章をお寄せください。

提出先アドレス soutou1656@gmail.com

2021年8月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

| 日 | 主日、祭日、祝日、祈願日等 | 教会の行事 |
|--------|----------------------|--|
| 1日(日) | 年間第18主日 | <ul style="list-style-type: none"> ・小教区評議会 (9:30 ミサ後) ・英語ミサ (12:00) ・センター&外のトイレ清掃 (英語ミサ後) |
| 6日(金) | 主の変容(主日) | ・日本カトリック平和旬間 8月6日(金)~15日(日)まで |
| 7日(土) | | ・信仰養成講座「知ってるつもり!?!」 (10:00 研究室) |
| 8日(日) | 年間第19主日 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本カトリック平和旬間のミサ(成井司教様司式) ・総務部会(10:00~ 研究室) |
| 10日(火) | 聖ラウレンチオ助祭殉教者(祝) | |
| 13日(金) | | ・墓参(寺尾 17:30 日和山 18:00) |
| 15日(日) | 聖母の被昇天(祭) 年間第20主日 | |
| 22日(日) | 年間第21主日 | <ul style="list-style-type: none"> ・聖堂、センター&外のトイレ掃除(各ミサ後) ・広報部会(9:30 ミサ後) |
| 24日(火) | 聖バルトロマイ使徒(祝) | |
| 29日(日) | 年間第22主日 | <ul style="list-style-type: none"> ・教会維持費の整理 (9:30 ミサ後 事務室) ・国際協力部会(10:00~ 研究室) |

※「教会の行事」が変更される場合は、日曜日毎に発行の「お知らせ」などでお伝えします。

※ ミサ時間：主日日曜日 (7:00 9:30 11:00) 英語ミサ (第1日曜日 12:00)

週日(7:00、金曜日のみ 10:00)

9:30のミサ、11:00のミサ2部制で行います。

各回、それぞれ朗読と共同祈願を選出します。急遽、朗読等をお願いすることがありますので、その際は快く引き受けくださるようよろしくお願いいたします。

月刊「双塔」毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

カトリック新潟教会 〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656
<http://cathedral-niigata.jp/> TEL025-222-5024 /FAX025-222-5054

